

平成20年 8月1日発行

## 自然観察会の開催 (2, 3ページ)

「アサギマダラマーキング」を9月7日、野生生物の餌となる実のなる木の「植樹計画地の視察」 を9月23日に行います。

アサギマダラマーキングは昨年初めて行ないましたが、参加者から好評で多くの方に体験していただきたいとの想いで今年も計画しました。今年は環境に配慮してバスで出かける予定です。

植樹計画地の視察は、昨年行った「ドングリ拾い」で各自が育てた苗木を植樹する予定地を視察します。又その上空で毎年繰り広げられているサシバやハチクマなどの「タカの渡り」の観察も合わせて行います。一ヶ月の間に2回の行事が集中していますが一人でも多くの方に体験していただきたいと思っています。

## **乗鞍岳マイカー規制** (5, 6ページ)

平成 15 年から始まった「乗鞍岳マイカー規制」も 5 年目になりました。今年が 2 回目の規制見直しの年であり、どのように見直しされるか注目しております。今回の見直しについて当会から 6 月 19 日に「意見書」、観光業界から 5 月 25 日に「規制緩和の要望書」が出されています。

8月中には乗鞍岳自動車利用適正化協議会が開かれて見直し内容が決まる予定です。

## 位山山頂整備計画が変更 (3ページ)

昨年当会が「要望書」を提出し問題提起してきた、高山市合併記念公園整備計画「モンデウス 飛騨位山スノーパーク」山頂エリアについて高山市は5月20日計画を見直し、展望台の建設取り 止め、トイレの設置場所の変更を決めました。新たに決まったトイレの場所は「天の岩戸」より も低い位置で、山頂から北側にあるカリヤス林道へ降りる途中に作られます。当会としては山頂 付近でのトイレ設置は必要ないとの考えでしたが、地元の一之宮町審議会の"トイレは必要"と の強い意見で「場所変更での設置」と云う事で決定しました。

## 乗鞍岳のライチョウ増加 (朝日新聞記事7/18より)

信州大学の中村浩教授の調査によると、2008年の乗鞍岳のライチョウの個体数は**170羽**。マイカー規制が始まった2003年は**120羽**。5年間で4割以上増えた。

これまで日本全国の生息数は3,000羽されていたが、現在は1,650羽と4割減少している。

#### 自然観察会の案内

# アサギマダラ マーキング

昨年初めて行なった「アサギマダラマーキング」。初めてのことだったので心配しましたが、初心者でも簡単で楽しくでき、チャオスキー場から濁河温泉までの道路沿いで 34 頭にマーキングして放蝶、後日アサギマダラの渡り調査をしている団体に報告をしました。今年も多くの方に参加していただき、アサギマダラの渡りの謎の解明に協力したいと考えています。この機会に多くの方に楽しんでいただけるように参加者を募集します。

今回は車の運転の心配もしなくて良いようにバスで行くことにしました。 会員交流・当会の活動 を知ってもらう意味も込めて格安に設定しています。 家族、 友人も誘って参加してください。

期 日: 平成20年9月7日(日)

会 費: <u>会員 · 家族無料</u>

非会員一人 1,000円 ・ 子ども一人 500円

**持ち物**: 捕虫網、油性フェルトペン(黒・細書き用)、メモ用紙、お弁当、

飲み物、日除け対策も忘れないでネ

日 程: 8:00原山合併公園駐車場(旧原山スキー場) ==== 8:10高山駅

------ 8:05別院前 ---- 美女トンネル ---- 朝日町

■■■■ 高根町日和田 ■■■ 9:30チャオスキー場(濁河温泉まで)

移動しながらアサギマダラのマーキング・食事) ==== 15:30高山着

定員: 先着25名にて締め切ります。

**申し込み**: ハガキに参加者名、住所、電話、乗車場所を明記して郵送してください。

申し込み先: 〒506-0025

高山市天満町6—6 宝田延彦

**問い合わせ:** 宝田延彦 (Pm 6:00以降)

0577-34-1287

(問い合わせは前日まで。当日は

現地ですので留守になります。)



### 自然観察会の案内

# 植樹地と"タカの渡り"を見よう

御岳山麓の広大なカラマツ林の一角に野生動物の餌となる"実のなる樹、広葉樹"を植樹する場所の視察と植樹の試行をします。その後、チャオスキー場に場所を移して付近一帯の空を南の国へと向かって次々と渡っていくサシバやハチクマなどのワシタカ類を観察します。

期 日: 9月23日(祝日・秋分の日)

雨天決行(高山市街が雨でも現地は晴れていることがあります)

集 合: 午前9時・高山市高根町日和田高原ロッヂ駐車場(日本一かがり火祭り会場手前)

解 散: 午後4時頃(午後から自由解散)

**持ち物**: お弁当、飲み物、帽子、雨具、軍手(防寒及び作業用)・防寒具(タカの渡り会場

は標高 1800mの吹きさらしで風が吹くと体が冷えてしまいますが、晴れると暑く

て紫外線も強いです。それぞれの対応を)

**問い合わせ:** (宝田) 0577-34-1287(当日は現地に行きますので留守です)

# 合併記念公園整備計画(位山山頂)

当会が見直しを求めていた合併記念公園 "モンデウス飛騨位山スノーパーク"整備計画の山頂部分の計画を変更した。主な変更点は以下の通り。

- 1) 展望台の建設はしない。代わりに山頂遊歩道沿いに乗鞍岳、御岳、白山などが望める場所に案内看板を設置する。
- 2) トイレの設置場所を"天の岩戸"よりも低い位置で、カリヤス林道側へ少し降りた場所にする。 高山市では以上の変更点を踏まえ今年度でこの事業を行なう計画にした。
- 今回の整備事業を行なうにあたり高山市は地元の意見を充分に取り入れてなかった計画であったように思われる。公園整備構想策定に辺り、市民に提案募集は行ないそれに基づき計画、公開のプロポーザルは行なってはきたが、昨年5月に突然「このような整備を行ないます」と一方的な発表があった。それに対して当会が見直しの要望書を提出した折、市から地元一之宮地域住民の意見を聞いた上での計画で議会の承認も受けていることなので変更はできないとの返事だった。地元住民への説明会なども開いてほしいと口頭でお願いしたがそれも開かれなかった。

3月に行なわれた当会の総会の折「一之宮地区の寄り合いの席でほとんどの人が"あの計画はおかしい"と言っていた」との情報が寄せられた。高山市定例議会で市議がこの問題を質問したときも計画通り進める答弁をした。しかしその後に開かれた一之宮地域審議会から流れが変わってきた。 慎重な意見が出されたのだ。そして5月に現地視察を兼ねた審議会を踏まえて今回の変更になった。

市当局は地元住民の声を聞いてから計画を進めたと言っていたが、どのくらいの人から聞いたのであったのだろうか。今回の計画は、ほんのわずかな人だけの意見で進めた計画だったと思われても仕方ない出来事のように思われる。

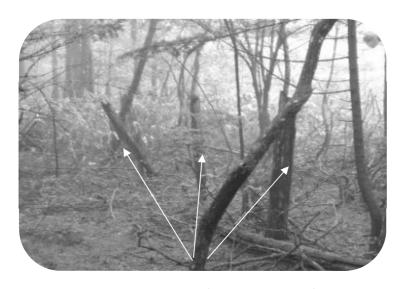
# 5月の自然観察会 "飛騨位山"へ登りました 5月25日



新登山道より駐車場を見下ろす



位山頂上の標柱



森の中にある牧柵の跡(今度、探してね) 右写真は杭に今も残る金具



○ 位山登山はリフト終点より上は雲の中、雨が降ったり止んだりという天候でしたが、多くの野鳥のさえずりを聞きながら登ってきました。

登山道の途中には戦前にあった牧場の柵(杭)が並んでいました。そのうちの1本には、出入り用の扉を取り付けた金具が残っていました。今度登ったら探

してみてください。登山道沿いにあります。



帰る頃には一之宮町の家並みが見えてきた

## 乗鞍岳マイカー規制

乗鞍スカイラインマイカー規制は今年が「規制の見直しの年」となっていてこの夏にも決定されるにあたり、当会は5月19日に乗鞍岳自動車利用適正化協議会事務局(岐阜県、高山市)それぞれに意見書『乗鞍の自動車利用適正化についての意見』を提出しました。

この意見書には当会が平成 16 年 2 月 10 日と、同 17 年 7 月 25 日に提出した要望書も添付しました。

2008年5月19日

乗鞍岳自動車利用適正化協議会 会長 土 野 守 殿

> 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 会長 飯 田 洋

#### 乗鞍の自動車利用適正化についての意見

近時、乗鞍岳の自動車利用適正化協議会に対し、一部の観光関連業者から、入山者の減少による 観光業への影響を懸念し、再びマイカーによる乗り入れを認めるべきとの意見や要望がなされてい る。

しかしながら、地元の観光業の低迷の原因は高速道路など道路整備の促進に伴う日帰り観光客の増加、愛地球博などの近隣のイベントによる旅行者の変動、乗鞍岳については天候不純など影響など多々あり、必ずしもマイカー規制との間に顕著な因果関係が認められるとは言い難い。

確かに、乗鞍岳は、中部山岳国立公園の一部であり、長年、多くの人々に優れた山岳景観や高山植物などを要する自然の風景地として観光に利用されてきた。国立公園には、利用の促進を図ると言う大きな目的もある。

しかし、スカイラインの開通後、多くのマイカーや観光バスが高山帯まで乗り入れ、過剰利用が 続いてきたため、道路沿いの針葉樹の立ち枯れ、ハイマツ帯の後退、高山植物の踏みつけなどの植 生の劣化が起こってきた。また、ライチョウの生息数も100羽を切るほどにもなった。一方で、 観光客や自動車に付着するなどして、外来植物が在来種の生育域を侵してもいる。

このような、状況を踏まえたがゆえに、平成 16 年 2 月 27 日から乗鞍適正利用検討委員会が開催され、同 17 年 7 月に、その諮問を受けて、マイカー規制がなされることになったのである。現在、乗鞍岳では、ようやく自然が少しずつ蘇り、過剰利用による植生破壊地の復元も始まったばかりである。

当会も、本書に添付のように平成 16 年 2 月 10 日と、同 17 年 7 月 25 日に二度にわたって要望書を提出して、より一層の保全措置を求めたところである。

このことは、乗鞍スカイライン周辺の山域の生物多様性の劣化が自動車乗り入れという人間の行為に起因しているとの認識に立ったためであることは言うまでも無いが、国立公園の利用、つまり、利用者にすぐれた自然を体験する機会を提供し、国民の保健・休養・教化に役立てるためには、公園内の生物多様性が重要であるとの認識が存在したからである。豊かな自然体験が人々に感動を与

え、命の繋がりをも理解せしめるのである。

したがって、再びマイカー乗り入れを認め、山頂付近までCO2をまき散らしながら大挙して押しかけることは、本末転倒であり、知床、尾瀬、上高地、立山など国内有数の自然公園の動向に逆行するものである。

また、観光業という立場からでも、自然観察会の実施や、ビジターセンターを設けて情報提供するなど、質的な面を高め、エコツーリズムといった自然に優しい利用の促進を図りながら生物多様性の保全を図ることは十分可能である。

2007年11月27日、政府は第三次生物多様性国家戦略を閣議決定し、そこで自然公園は生物多様性保全の屋台骨としての役割を担っていると位置づけている。現在、国立公園が野生動植物のための保護地域として果たす役割は極めて大きくなっているのである。

2010年には名古屋市で生物多様性条約締結国会議が予定されており、環境省は国立公園の果たすべき役割を、単なる観光地ではなく生物多様性保全のための砦と捉え、公園の拡充と見直しを行うなど、生物多様性に向けて大きく動き出そうとしている。このような時代の趨勢において、岐阜県や高山市においても、中部山岳国立公園の一環として重要な役割を担う乗鞍岳周辺地域を、よりいっそう自然公園地域として保全し拡充していく必要があろう。

そのためには、徴収している環境保全税を利用して、より積極的に自然景観、野生動植物や生態系に関する調査モニタリングの充実が必要である。生物多様性保全を実効的に実現するために、管理を計画的に推進し、次世代に引き継いでいくことが重要なのである。

よって、当会は、今後もマイカー規制は継続し、さらにモニタリングと自然環境保全のための積極的な施策を求める次第である。

■ 会員状況: 平成20年6月末会員数 個人·家族119·団体3

■ 寄付: 冨田義治 (2,000円) ありがとうございました。

■ 会員を募集しています! 年会費 = 個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円

あなたの知人、友人に

- 郵便振替 00800-8-129365

入会をおすすめください

- 振 込 先 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

#### **くらがね通信 第 33 号 (盛夏号)** 平成 20 年 8 月 1 日発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒 506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋 TEL 0577-32-7206 ・ FAX 0577-32-7207

#### 編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者:宝田 延彦 E-mail: nobu1995@peach.ocn.ne.jp TEL(FAX 兼) 0577-34-1287

■ 編 集 者:住寿美子 TEL 0577-34-7237

表紙写真提供: 小池 潜 印刷: アドプリンター